

### 3 環境情報の収集・発信

センターでは、県民の環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報など様々な情報をホームページで提供している。平成26年7月からは、フェイスブックを活用して、イベントや生態園の四季、センターの活動などの情報も発信している。

また、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行している。

HPアドレス <http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/index.html> [令和元年度アクセス件数 163,448件]

フェイスブックページアドレス <https://www.facebook.com/saitama.kankyokagaku>

#### 3.1 ホームページのコンテンツ

##### (1) グローバルナビゲーション

トップページ上段に、以下の4つの大分類を設け、サイト構成をわかりやすく整理。

- ア センターについて 総長あいさつ、組織図、沿革、全景(航空写真)、パンフレットなどを掲載。
- イ 施設紹介 施設紹介、ご利用案内、展示館、生態園、環境情報プラザ、研修室などを掲載。
- ウ 試験研究の取組 試験研究の取組、研究課題、研究評価の取組、国際貢献、研究員紹介などを掲載。
- エ 環境学習・情報 イベントのお知らせ、彩の国環境大学、身近な環境観察局、出前講座などを掲載。

##### (2) お知らせ

特に注目してほしい情報を掲載。

##### (3) 新着情報

最新の更新情報を掲載。

##### (4) 環境学習・イベント情報

最新のイベント情報、社会科見学、出前講座の案内など環境学習に関する情報を掲載。

##### (5) 研究所トピックス

ニュースレター、センター講演会など研究所に関する情報を掲載。

##### (6) お役立ちPickUp

イベント情報、「ココが知りたい！埼玉の環境」などアクセスの多い情報を掲載。

##### (7) リンク

埼玉県気候変動適応センター、刊行物、地図で見る埼玉の環境 Atlas Eco Saitamaなど。

#### 3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するためのニュースレター(A4版・6ページ)を令和元年度は4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページからも閲覧及びダウンロードができる。

##### (1) 第43号(平成31年4月発行)

- ・ 新総長ごあいさつ
- ・ 研究・事業紹介 「埼玉県地質地盤資料集(2018年度版)を発行」  
「CESSにおける研究課題の設定・評価と成果の活用」  
「埼玉県環境科学国際センター講演会」を開催しました
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(34) 埼玉県の川の水には、どんな細菌がいて、何をしているの？最近よく聞く大腸菌の数はどうやって調べるの？
- ・ 環境学習・イベント情報

##### (2) 第44号(令和元年7月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「太陽光発電による廃棄物最終処分場の跡地利用」  
「事故や災害時の化学物質の漏出対策～高リスク化学物質の迅速測定法の開発～」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(35) 湧き水(湧水)はどこに行けば見られるの？
- ・ 環境学習・イベント情報

##### (3) 第45号(令和元年10月発行)

- ・ 研究・事業紹介 「古くて新しい大気汚染“光化学スモッグ”をドローンで調べる」  
「野生動物研究の技術革新！センサーカメラを使った行動調査」

- ・ ココが知りたい埼玉の環境(36) 温暖化によって気温が上昇すると埼玉県農作物にどのような影響を与えるのでしょうか？

- ・ 環境学習・イベント情報

#### (4) 第46号(令和2年1月発行)

- ・ 研究・事業紹介「内陸県埼玉から海洋マイクロプラスチック汚染を考える」  
「環境科学国際センターにおける環境学習について」
- ・ ココが知りたい埼玉の環境(37) 化粧品やシャンプーに含まれるシリコーンってどんな物質？その環境リスクは？
- ・ 環境学習・イベント情報

### 3.3 センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的として「令和元年度環境科学国際センター講演会」を令和2年2月3日に埼玉会館(さいたま市浦和区)で開催した。新たな環境問題となっているマイクロプラスチックに迫るべく、京都大学大学院地球環境学堂准教授の田中周平氏が特別講演を行うとともに、センター研究員による研究成果・事例の発表及び研究活動紹介のポスター展示と解説を行った。センター講演会の参加者は375名であった。

#### (1) 特別講演

**私たちの暮らしとマイクロプラスチックとの関係……………京都大学大学院地球環境学堂 准教授 田中 周平**

これまでの海洋での調査では検出されなかったパーソナルケア製品中のスクラブ剤などを排出源とするマイクロプラスチックが河川・湖沼での調査で検出され、その挙動が徐々に明らかになるとともに、海洋の底泥中に数十 $\mu\text{m}$ サイズのマイクロビーズが存在することが明らかになった。10 $\mu\text{m}$ レベルでの分析技術が確立されてきたことで水環境中にマイクロファイバーが多く存在し、洗濯排水に起因して水環境中にかなり膨大な数の微小プラスチックが存在していることが判明している。日本の水環境中のマイクロプラスチックはアジアの途上国と比較し低濃度であり、これは我が国のゴミの収集や処理など一連の流れが低減に寄与し、生物への汚染も抑えている。プラスチックの利便性を享受しながらも排出側を管理するシステムを構築し、世界に誇れる日本を示すチャンスが来ていると説明した。

#### (2) センターの研究成果・事例紹介

**私たちが変えてきた気候～地球温暖化だけではない気候変動……………温暖化対策担当 主任 原 政之**

地球温暖化による気温上昇とともに、都市化による都市ヒートアイランドによる気温上昇がある。東京都市圏でもこれが顕著で、冬季の明け方の晴れた弱風の時には、シミュレーションでは3 $^{\circ}\text{C}$ 以上の上昇がみられた。建物などへの貯熱などと、電化製品などの使用時の人工排熱により空気が温められるため、地球温暖化対策と同時に、都市ヒートアイランド対策も進めていく必要があることを紹介した。

**植物から放出される成分と大気環境との関わり……………大気環境担当 担当部長 佐坂 公規**

揮発性有機化合物(VOC)には人為起源のものだけでなく、植物から放出されるもの(BVOC)もある。光化学オキシダントの生成に関してはVOCとBVOCとに大きな違いはなかった。また、夏季の微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)中にBVOCの寄与が大きい可能性があることがわかった。BVOCとともに人為起源VOCについても発生源の寄与に関する研究を進めていくことを紹介した。

**古くて新しい環境汚染物質～難燃剤デクロランプラス……………化学物質・環境放射能担当 主任研究員 蓑毛 康太郎**

ハロゲン系難燃剤のデクロランプラスは、強い毒性はないものの難分解性で長期間環境中に残留し、生物蓄積性を有することから、新たな環境汚染物質として注目され、その汚染実態が分からないため環境中の濃度を調査した。大気中の濃度は概して県南部の人口密集地で高く、河川水・底質も県南東部の下流域で濃度が高い傾向があった。濃度レベルは国内他地域と同程度で、また、一般環境における毒性リスクは低いことを紹介した。

#### (3) センターの活動紹介

各担当がその活動概要を紹介するポスターを展示し、参加者に説明するとともに、質問に答えた。



基調講演



ポスター展示

### 3. 4 環境情報の提供

#### (1) 気候変動適応センター

埼玉県では、平成30年12月の気候変動適応法施行にあわせ、埼玉県環境科学国際センターを地域気候変動適応センター(埼玉県気候変動適応センター)に位置付けた。埼玉県気候変動適応センターでは、県内の気象情報や影響情報、適応策に関連する情報を収集・整理するとともに、新たに埼玉県気候変動適応センターのホームページ(SAI-PLAT)を立ち上げ、インターネットを通じた情報提供を開始した。さらに、気候変動サイエンスカフェなど様々な手段を通じた情報発信を行っている。

#### 気候変動サイエンスカフェ

期 日	テーマ	講 師 名	開催場所	参加者
2019. 8. 7	「熊谷vs多治見」暑いのはどっち？	スピーカー 産業技術総合研究所 主任研究員 高根雄也 ファシリテータ オフィス気象キャスター株式会社 田代大輔	さいたま市	31名
2019. 9.25	異常気象と地球温暖化 ーこれまでと、これからとー	スピーカー 国立環境研究所 気候変動リスク評価研究室長 塩竈秀夫 ファシリテータ 国立環境研究所 社会対話・協働推進オフィス 岩崎 茜	さいたま市	22名
2019.11.27	温暖化で鹿が増え過ぎている？ ー県内の森林被害の現状と対策ー	スピーカー 埼玉の森林を考える会 森田 厚 ファシリテータ 埼玉県環境科学国際センター 角田裕志	さいたま市	36名

(3講座、計 89名)

## (2) モニタリングデータの提供 (CO<sub>2</sub>)

環境科学国際センターは、さいたま市(1991～2000年度)、堂平山(1992年度～)及び当センター(2000年度～)において、地球温暖化原因物質である大気中のCO<sub>2</sub>の濃度を観測してきた。測定に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)へ提供することにより、国連世界気象観測機構(WMO)の観測網を通して世界各地に供給した。平成21年10月からは、当センターの観測結果(速報値)をセンターホームページに掲載(自動更新)し、公開している。

## (3) 環境情報の海外への発信

ホームページに英語版、中国語版のパンフレットを掲載するとともに、英語版ホームページにより研究成果や研究員紹介などを掲載し、海外に向けた情報発信を行った。

## (4) 共同研究サポート等

民間事業者や地域との連携を強化するため、次のとおり試験研究成果を積極的に情報発信し、民間事業者との共同研究をサポートする体制を整備した。

地域と民間との連携を考える懇談会:平成31年4月19日と令和2年2月18日に開催された地域と民間との連携を考える懇談会において、環境科学国際センターの研究及び事業に係る地域や民間事業者との連携について有識者から助言をいただいた。

研究シーズ集第2版:前年度に作成した研究シーズ集を改訂し、研究シーズの活用事例やSDGsとの関係を盛り込んだ研究シーズ集第2版を発行した。

県内経済団体等との連携:埼玉県経済6団体(埼玉県商工会議所連合会、埼玉県商工会連合会、埼玉県中小企業団体中央会、埼玉県経営者協会、埼玉経済同友会、埼玉県中小企業家同友会)及び埼玉県産業振興公社、埼玉りそな銀行法人部との連携を確認し、研究シーズ集の配布、周知等を行った。

埼玉県経営者協会視察会:令和元年11月8日に埼玉県経営者協会による環境科学国際センターの視察会が行われた。環境科学国際センターの概要説明、研究シーズの発表、研究所・展示館・生態園の視察を実施した。

中小企業相談所長会議:令和2年2月7日に県内の16商工会議所の相談所長が一堂に会する中小企業相談所長会議が開催され、会員企業の環境保全技術に関する相談や支援等に当センターの研究シーズを活用していただくため、その一部を紹介した。

新都心イブニングサロン:令和元年7月19日(テーマ:環境)、令和元年11月1日(テーマ:事業連携)に開催された新都心イブニングサロンに参加し、環境科学国際センターの紹介や民間企業等との情報交換を行った。

彩の国ビジネスアリーナ2020:令和2年1月29日～30日にさいたまスーパーアリーナで開催された彩の国ビジネスアリーナ2020に出展し、研究シーズの紹介や民間企業等との情報交換を行った。

アンケート調査:県内の民間企業等の環境問題やその対策に関する意識を把握し、今後の調査、研究業務を推進するため、インターネットによるアンケート調査を実施した。

民間企業等との共同研究:民間企業、団体と化学物質の分析に関する共同研究を2件実施した。



研究シーズ集第2版



彩の国ビジネスアリーナ 2020 への出展

### 3.5 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して記者発表を行ったほか、取材を受ける等の結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

#### (1) 新聞報道、広報誌掲載

(23回)

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2019. 4.10	建設工業新聞	科学技術協力で現地市場に積極参入	日本と開発途上国による国際共同研究の枠組み「SATREPS」により、ベトナムで都市化の進展に伴い急増する建設廃棄物の適正管理とリサイクル技術の研究が行われている。埼玉大学の川本健教授が研究代表者となり県環境科学国際センター、国立環境研究所、ベトナム国立建設大学などがチームで共同研究を実施中である。
2019. 4.15	週刊循環経済新聞	生コン用再生骨材Lの生産体制を標準化	増尾リサイクルは、SATREPSプロジェクトの一環としてベトナム建設省とベトナム建材協会の視察団を朝霞工場に招いた。SATREPSプロジェクトには、ベトナムの国立建設大学や建設省など6機関、日本の埼玉大学、県環境科学国際センター、国立環境研究所が参画している。
2019. 4.27	埼玉新聞	CGで不思議な世界加須で科学イベント	県環境科学国際センターでゴールデンウィーク特別企画「青空のもとサイエンスの扉を開こう」が開かれる。昆虫学者五箇公一氏の描く「生きもの世界展」をはじめ、連日イベントが開催される。
2019. 5.12	読売新聞	全国広報コンクール県と三郷市が入選	自治体の優れた広報展開を表彰する「全国広報コンクール」において、県温暖化対策課が行った「暑い×埼玉＝日傘!? 埼玉発『日傘男子普及啓発キャンペーン』」が入選した。県環境部の男性職員20人で「日傘男子広め隊」を結成し、ツイッターなども利用して広報活動を行った。日傘の効果検証を県環境科学国際センターと協力して続け、企業とも連携を深める。
2019. 5.13	日経コンストラクション	スパコンで暑さ対策	県環境科学国際センターと海洋研究開発機構が共同で実施した、熊谷スポーツ文化公園を対象とした、シミュレーションによる暑さ対策の結果が紹介された。
2019. 7. 24	朝日新聞	外来カミキリ脅威拡大中 幼虫がサクラやモモ枯らす 駆除へ市民に協力呼びかけ	幼虫がサクラやモモなどの生木を食い荒らして枯らしてしまいうクビアカツヤカミキリが、分布を広げつつある。すでに7都府県で被害が確認され、地域内の分布も拡大中だ。自治体は神経をとがらせ、市民に目撃情報などの提供を呼びかけている。埼玉県も昨年「クビアカウオッチャーズ」として、県民にメールでの通報を呼びかけている。昨年は250カ所から情報が寄せられ、128カ所で成虫や幼虫の痕跡が確認された。
2019. 7.26	静岡新聞	高所研究拠点・旧富士山測候所 夏期観測の利用者5千人に到達	認定NPO法人富士山測候所を活用する会による、富士山頂剣が峰(標高3776メートル)の旧富士山測候所を活用した夏期観測の参加者が延べ5千人に到達した。5千人目の利用者は、微小粒子状物質「PM2.5」の観測機器の立ち上げや確認などで富士宮口から登山した県環境科学国際センターの米持真一研究員だった。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2019. 7.29	埼玉建設新聞	協会の存在意義周知へ 19年度定期総会と講習 会開く コンクリート非破 壊調査協会	コンクリート非破壊調査協会は、さいたま市内で2019年度定期総会を開いた。協会の事務局から、新規事業を進めるためのヒントとして県環境科学国際センターの「研究シーズ集」が紹介された。
2019. 7.30	東京新聞	外来カミキリ「情報を」 調査の県センター 被害急増 目印は「フン と木くず」	サクラなどの樹木を食い荒らす「特定外来生物」のクビアカツヤカミキリによる被害が、県内で広がっている。調査している県環境科学国際センターは、被害が確認できる写真など情報提供への協力を呼び掛けている。
2019. 7.31	日本経済新聞	熱中症リスクで警告 リストバンド使い実験	県はリストバンドを使った実証実験を始めた。熱中症になる手前で警告を鳴らし予防を促す。横瀬町や小鹿野町など県内5市町村に住む高齢者や、観測調査などで暑さが厳しい環境で働く県環境科学国際センターの職員に利用してもらう。
2019. 8.11	読売新聞	サクラの木 ピンチ 迫る「クビアカツヤカミ キリ」 県民へ情報提供呼び かけ	サクラの木を食い荒らすとして特定外来生物に指定された昆虫「クビアカツヤカミキリ」の県内の被害が拡大しているため、県環境科学国際センターは31日までを集中調査期間とし、県民からの情報提供を呼びかけている。昨年度は県内8市の128カ所でソメイヨシノなどの被害が確認され、2017年度末までの被害に比べ、5倍に増えたという。
2019. 8.16	埼玉新聞	レモン電池に挑戦 加須 子どもが電気教室	電気の安全な使い方を学ぶ「夏休み子ども電気教室」(関東電気保安協会)が県環境科学国際センターで開催された。県内の小中学生約80人が、レモンを使った電池づくりに挑戦した。
2019. 8.21	日刊工業新聞	ラグビーW杯 残暑の熊谷で…	9月20日のラグビーW杯開幕まで残り1カ月を切った。暑さ対策を積極的に進めてきたのが埼玉県の熊谷ラグビー場(熊谷市)だ。県環境科学国際センターと海洋研究開発機構はスパコンを用いた数値実験を実施。実験結果は植栽方法や舗装の選定に生かされた。
2019. 8.22	産経新聞	来月20日開幕 準備大詰め	ラグビーW杯開幕まで1カ月を切り、試合が行われる県営熊谷ラグビー場がある熊谷スポーツ文化公園では、本番に向けた準備が大詰めを迎えている。県は暑さ対策として、公園内の歩道に、ケヤキを植えるなど整備してきた。県のシミュレーションでは路面温度が約9度下がったという。
2019.10.20	埼玉新聞	県立博物館や動物園 が無料	県は10月22日に行われる即位礼正殿の儀に伴い、慶祝事業として県立博物館や動物園を無料公開する。入園料などが無料となる施設は、県環境科学国際センター展示館など。
2019.11.20	埼玉新聞	電気の安全、危険学 ぶ	関東電気保安協会は県環境科学国際センターで「電気実験教室」を実施し、小学3年生から中学生までの児童生徒が電気の安全や危険を学んだ。同センターの県民の日特別企画の一環で行われた教室であり、備長炭を使用した炭電池を作り参加者たちは楽しみながら電気の不思議を学んだ。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2019.12.23	埼玉新聞	来春リニューアル・展示館の愛称募集	県環境科学国際センターの展示館が来年3月にリニューアルオープンするのを記念し、12月27日まで展示館の愛称を募集している。愛称は振り仮名で10文字以内、命名の理由を添える。最優秀賞、優秀賞に図書カードが、応募者全員に入館無料券が贈られる。
2020. 1.14	ニッポン消費者新聞	埼玉県の二酸化炭素濃度が過去最高を更新	世界的な異常気象や山林火災、巨大台風の発生要因として気候変動の影響が叫ばれる中、県環境科学国際センターはこのほど、県内における2018年の二酸化炭素濃度が観測史上最高を更新したと発表した。観測開始からの濃度増加率は世界平均とほぼ等しく、地球規模での濃度増加による影響とみている。
2020. 2.19	埼玉新聞	被害木伐採へ補助 特定外来生物のカミキリ 熊谷市、拡散防止狙う	県環境科学国際センターが提供したクビアカツヤカミキリ関連の写真が掲載された。
2020. 3. 5	毎日新聞	熊谷、年平均気温が急上昇	国内の観測史上最高気温41.1度を2018年7月23日に記録した熊谷市。市の年間平均気温は100年間に2.1度の割合で上昇し、全国平均(1.2度)の2倍近い上昇率となっていることが、県環境科学国際センターの分析で明らかになった。
2020. 3.24	産経新聞	サクラを枯らすクビアカ、被害拡大	県環境科学国際センターは23日、サクラを枯らす特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害が昨年6月～今年2月で、県内12市町の205カ所で確認されたと発表した。平成30年度の前回調査から77カ所増えており、有効な防除対策の確立を急ぐ。
2020. 3.26	読売新聞	桜の食害 北・東部で拡大 県、カミキリ繁殖に警鐘	幼虫が桜の木を食い荒らして枯らす特定外来生物の昆虫「クビアカツヤカミキリ」による被害が県内で拡大していることが、県環境科学国際センターの調査でわかった。2019年度の調査では、熊谷市や行田市などの県北部と草加市などの県東部で特に被害が多かった。同センターの担当者は「将来分布が広まれば、花見ができなくなるかもしれない」と警鐘を鳴らしている。
2020. 3.29	東京新聞	桜むしばむ 被害拡大 12市町で205カ所の報告 放置すると花見ピンチ 老木化も産卵の脅威	県内では桜を枯らす外来害虫「クビアカツヤカミキリ」に脅かされている。県環境科学国際センターの実施した「クビアカツヤカミキリ発見大調査」により、2019年6月から2020年2月までの間に、205カ所の被害報告があった。前年の調査と比べると、4市町、77カ所増えた。今後は、県や被害が発生した市町による連絡会議を開いて防除体制を強化するほか、周辺市町との連携も検討する。調査を継続して県内全域の状況把握にも努める。



## (2) テレビ放映、ラジオ放送

(12回)

放送日	局名	番組名(タイトル)	内容
2019. 6. 7	日本テレビ	Oha!4 NEWS LIVE (今年は多い?「光化学スモッグ」)	県環境科学国際センター研究員が、光化学スモッグの発生条件について、また、モニタリングに使われている光化学オキシダント測定機とともに測定値や環境基準について解説した。また、農作物や人体への影響、光化学スモッグ注意報に関する資料提供及び説明映像の撮影に協力した。
2019. 8. 6	NHK	首都圏ネットワーク (ラグビーW杯会場 暑さ対策は?)	県環境科学国際センターと海洋研究開発機構が共同で実施した熊谷スポーツ文化公園を対象としたシミュレーションを検証するための気象観測について紹介された。
2019. 8.20	テレビ埼玉	ニュース545 (ラグビーW杯開幕まで1か月 熊谷スポーツ文化公園の暑熱対策)	ラグビーW杯に向け、県で進める暑熱対策工事が完了した。遮熱性舗装については、県環境科学国際センターが中心となって気象観測を行い、効果を解析中である。
2019.11. 6	NACK5	モーニングスクエア (「県民の日特別企画」のお知らせ)	県環境科学国際センターが、県民の日特別企画として開催するイベントの内容について紹介された。
2019.11.28	NACK5	モーニングスクエア (「クリスマス講座」のお知らせ)	県環境科学国際センターが12月に開催するクリスマス手作り講座(「実りのリースを作ろう」「廃油からクリスマスアロマキャンドルを作ろう」「草木染をしてみよう」)の参加者募集について紹介された。
2019.12.14	テレビ埼玉	魅力まるごと いまドキッ! 埼玉 (「臨時休館及び愛称募集」のお知らせ)	県環境科学国際センターが展示館リニューアル工事に伴い1月8日～3月23日まで臨時休館すること、また、12月27日まで展示館の愛称を募集していることを紹介された。
2019.12.24	NACK5	モーニングスクエア (「臨時休館及び愛称募集」のお知らせ)	県環境科学国際センターの展示館リニューアル工事に伴い1月8日～3月23日まで臨時休館すること、また、12月27日まで展示館の愛称を募集していることが紹介された。
2020. 1.20	NACK5	モーニングスクエア (環境科学国際センター講演会のお知らせ)	県環境科学国際センター講演会の参加者募集について紹介された。
2020. 1.23	TBSテレビ	Nスタ (絶景 緑のじゅうたん 幻想的 正体は”やっかい者”の水草)	県環境科学国際センター研究員が、鶴田ダム(鹿児島県)の湖面を覆いつくすほどに繁茂するボタンウキクサ等の外来水草による生態系への影響について解説した。
2020. 2. 3	テレビ埼玉	ニュース545 (県環境科学国際センター 研究結果報告会)	県環境科学国際センター講演会において、研究員が発表した都市ヒートアイランドに関する研究成果報告と、会場で実施した各研究担当によるパネル解説の中から、外来種クビアカツヤカミキリによるサクラの被害に関する注意喚起が紹介された。
2020. 2.10	テレビ埼玉	ニュース545 (記録的暖冬 原因と県内の影響)	県環境科学国際センター研究員が、2019年から2020年にかけての冬の高温傾向の原因について気象庁資料に基づき、解説をおこなったものが放映された。



放送日	局名	番組名(タイトル)	内容
2020. 3.21	テレビ埼玉	魅力まるごと いまドキッ! 埼玉 (センター展示館、研究内容の紹介)	県環境科学国際センターが開設された理由、目的、センターの持つ4つの機能、施設概要などを紹介後、リニューアルした展示館内を案内、リポーター展示施設を体感しながら巡った。また、研究棟に入り、研究分野の内容を紹介。身近な研究内容として、外来種クビアカツヤカミキリによるサクラの被害について説明した。

(3) ミニコミ誌等

(5回)

掲載日	掲載誌	タイトル	内容
2019. 8. 1	上尾商工会議所情報誌「あびお」8月号	夏休み特別企画「キミの自由研究を全力サポート」	県環境科学国際センター夏休み特別企画の開催日時や参加方法、クビアカツヤカミキリ発見大調査2019、彩の国環境大学受講生募集などを紹介。
2019.10. 1	ほくさい	ほくさい彩発見 身近な名所をご紹介します「埼玉県環境科学国際センター」	県環境科学国際センターの研究所大公開、サイエンスショー、環境トーク&ミュージックの開催日時や参加方法などを紹介。
2019.10. 4	ぼど 白岡・久喜・加須	紅葉狩りに行こう 県民の日特別企画	近隣エリアの秋を満喫するスポットとして県環境科学国際センターの生態園や県民の日特別企画の開催を紹介。
2020. 2 改訂版発行	かぞYou遊	KAZO ASOBI SPOT 環境について楽しく遊べる場所 埼玉県環境科学国際センター	県環境科学国際センターについて紹介。
2020. 2.28	コロンブス 3月号	日本の地域力「文化埼玉県」コーナー 埼玉県環境科学国際センターが3月24日(火)リニューアルオープン!	県環境科学国際センターの展示館リニューアルオープンについて紹介された。